

平成 21 年 4 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2009
課題番号：18330203
研究課題名（和文） 国際標準としての ICF 理念にもとづく「個別の教育支援計画」策定と実践モデルの構築
研究課題名（英文） Development of individualized education plans from the viewpoint of ICF.
研究代表者
片桐 和雄（KATAGIRI KAZUO）
金沢大学・学校教育系・教授
研究者番号：00004119

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：特別ニーズ教育，個別の教育支援計画，ICF，実践モデル

1. 研究計画の概要

「個別の教育支援計画」が自己実現に向けた最適な教育活動を進め得るものとして機能するための要件を明らかにする。このため、ICF 理念にもとづく教育計画の各種障害事例への適用と実践的検証をとおして、「個別の教育支援計画」の体系的実践モデルを構築する。

2. 研究の進捗状況

(1) 2006 年度

ICF 理念に基づく「個別の教育計画」策定と実施・評価に至る一連の過程と各過程での要件を検討した。自己実現に向けた最適な教育活動を組織する上で、本人の意思表示は重要である。言語での意思表示が可能な肢体不自由の中学生を対象に「原型モデル」を作成した。

結果、計画策定ではニーズ把握が重要であり、言語による意思表示が可能な対象者でも、表現されたニーズは概して一般的、抽象的であり、ニーズの実現を目標とした計画の策定が困難であった。目標設定の過程では、本人のニーズから発して実現可能で、具体的内容へと収束させるための支援が重要である。目標が具体的であることは基礎資料からの評価能力が特定でき、かつ取り組むべき課題と必要な環境・支援の特定を可能とする。さらに支援者は具体的生活像を理解・共有でき有効なチームアプローチを可能とした。

(2) 2007 年度

前年度の結果を踏まえ、適用対象を軽度発達障害、言語障害、知的障害、自閉症、重度重複障害へと拡大し、ICF 理念・モデル適用の課題を探った。加えて、対象事例の担任をはじめとする学校教員を研究協力者として組織し、ケース検討会、研究会の定例開催など、連携体制の強化を図った。

結果、各種障害事例に共通して、計画策定には目標設定が重要な鍵となった。特に知的障害や超重障事例ではニーズの表出自体に困難さがあり、ニーズを表出できる存在へと育てること自体が課題となった。

(3) 2008 年度

組織化された研究連携体制のもとで前年度課題の継続検討を行なった。

結果、これまで3年間の成果を事例集としてまとめ、刊行した。今後関係各方面から広く意見を求め、実践モデル構築に活用する。今後さらに研究すべき4つの課題が抽出された。a) 本人の主体性が反映される支援目標設定原理と手続きの解明、b) ICF 活用における支援者と本人の利便性の峻別とその要件の明確化、c) ライフステージを貫く支援の連続性を重視したチームアプローチへの活用、d) 発達捕捉における ICF-CY コードの有効性検討。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

過去3年間において、計画した課題は上述したように十分に達成された。その中で特に、

多数の学校教員を研究協力者として加えたきわめて強力な研究連携体制を組織することができたこと、そしてこの下で実践と結合した研究成果をあげたことは特筆に値する。これによって、当初計画より1年はやく、その成果を実践事例集「特別支援教育とICF - ICFは障害児教育の課題を継承し、克服するのか - 」として公刊することができた（「研究成果」〔その他〕 参照）。

4. 今後の研究の推進方策

本研究の課題は、障害の種類・程度、年齢、教育・生活条件等が異なる多様な事例への実践をとおして研究が進められる。このため関連情報を含めるとそのデータ量は膨大となる。このため、ICF理念に基づく最適な「個別の教育支援計画」実践モデルの構築という目的に沿った形で入力できる実践分析情報の登録（県内の数校にプランチを設置）とそれらからの資料集積・分析・管理（大学にホストを設置）システムを導入する。これより、長期にわたる多数事例の教育支援計画策定と実践過程の妥当性検証を適時実施しつつ、多様な事例の共通性を明確化し、これに個別事例の独自性を位置づけて、一般化可能な実践モデルを体系化する。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計 2件)

吉川一義, 河合隆平, 特別支援教育における意義と活用- ICFはいかに障害児教育の課題を継承し、克服するのか-, 総合リハビリテーション, 37巻3号, 215-219, 2009.3, 査読有

Koike, T., Katagiri, K., et al. Early development of understanding words and equivalence cognition of matching pictures in children with severe motor and intellectual disabilities.

The Japanese Journal of Special Education, 46(6), 417-433, 2009.3,

査読有

〔学会発表〕(計 1件)

吉川一義: シンポジウム「共通言語としてのICF; 教育におけるICFの活用」, 第31回総合リハビリテーション研究大会, 2008.8.30, 広島市

〔その他〕(計 8件)

片桐和雄, 吉川一義, 河合隆平, 小林宏明, 武居渡, (他3名), 実践事例集「特別支援教育とICF - ICFは障害児教育の課題を継承し、克服するのか - 」, 2009.3, 80ページ

吉川一義, 記念講演, ICFの理念を特別支援教育に活かす-内発性に基づく支援とカスタムメイドの生活デザイン, 第49回石川県特別支援教育研究協議会, 2007.11.15.